



日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.20 ポルトガル語担当 濱口さん

「マンゴーとミルクを組み合わせると体に悪い」と聞いたことはないでしょうか。これはブラジルでもっとも物議を醸すと言われている迷信ですが、現在でも事実として世代から世代へと語り継がれています。その証拠に、ブラジルではフルーツと牛乳をミキサーにかけたドリンクのことを「Vitamina (ビタミン)」と呼び、栄養ドリンクのような感覚でカフェなどでもよく提供されていますが、マンゴーのビタミンAがメニューに載っているのを見ることがありません。



ではなぜこのような迷信がブラジル全土に広まったのでしょうか。その答えは、ブラジルの植民地時代にあると言われています。当時、牛乳はとても高価な食品で、地主のみが販売、消費できるものでした。農村部どこでも豊富に採れるマンゴーは奴隷の食料とされており、貴重な牛乳が奴隷たちによって消費されるのを防ぐため、地主たちによって意図的にこの説が作られ広められたそうです。奴隷制度の廃止から130年以上たった今でもずっと語り継がれているので驚きですね。



マンゴーの木を見上げる私の母とマンゴーの実



私も大人になるまでこの迷信を信じていました。マンゴーはβ-カロテン、ビタミンC、カリウム、繊維質などの栄養素が豊富で、タンパク質やカルシウムの供給源となる牛乳と混ぜて飲むことは「体に悪くない」とわかっていながら、それでも自分の子供達にマンゴースムージーを作ってあげることに少し抵抗があります。迷信の力って恐ろしいですね(笑)

今月のトピックス



「お・も・て・な・し」



思えば東京五輪2020の招致活動の際に、世界中からの来日に向けて「おもてなし」という言葉が流行りましたね。インバウンドが増え続けていた頃です。そこからコロナ禍を経て、今また円安の影響もあり海外から日本を訪れる人の数は再び爆発的に増えています。オンラインの医療通訳を通して、私たちがその勢を感じる毎日ですが、時にふと、この「おもてなし」について考えさせられます。

医療の場における「おもてなし」とは何でしょうか？英語の「病院(hospital)」にも通じる「hospitality」は、この「おもてなし」の英訳ですが、外国から来た患者さんに対する一番の「おもてなし」は、やはり安心だと思います。言葉が通じること、お互いの言いたいことが相手に伝わること、納得して治療にあたること、どれも私たちが大切にしたいと考えていることです。

インバウンドの旅行者だけでなく、昨今話題になる外国人労働者の皆さんに対しても同じように「医療の安心」は不可欠です。少子高齢化の進む日本で、来日して日本社会で働く人たちが、一緒に日本に来た家族が、病気やケガをした時に安心して病院に行けることは、日本を働き先として選んでもらえることの大きな条件だと思います。

Medi-Wayでは、医療機関だけでなく、外国人の社員がおられる企業の皆さんとも手を携えて、社員の健康管理や治療が必要な際のお手伝いを行っています。私たちが「おもてなし」を日々追求していきたくと考えています。

「治療の選択・命の選択」



通訳センターには、時にDNR(蘇生措置拒否)の通訳依頼が舞い込みます。終末期のICに関しては、勉強会でも実際の通訳対応事例を教材に何度か学習を重ねてきました。内容の難しさだけでなく、ご家族にどのように通訳するか、訳語一つ一つに注意を払います。

ところで、中国には「病危通知書」なるものがあります。日本語に訳しにくいのですが、簡単に言うと病院から出される「生命の危機に瀕していますよ」通知です。診断名と今後の見通し(亡くなったり重度の障害が残る可能性)について記されており、病院側と患者側(多くは家族)がサインします。治療に関わる費用が一般的に前払いの中国、中にはサインしない家族もいるようですが、そうすると次の治療や処置ができない場合もあると言われます。ある通訳者の家族が脳幹出血で運ばれた日は、一旦回復しては悪くなり、1日に3回も「病危通知書」にサインしたそうです😭

